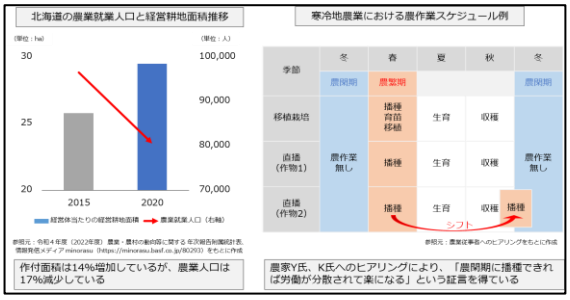
GerminaX
特殊ポリマコーティングによる発芽時期管理ソリューション

指定したタイミングで剥離するポリマーを種子にコーティング
発芽人手不足解消・発芽率・歩留まり率向上を同時に実現する

■ ポリマコート種子技術開発の背景

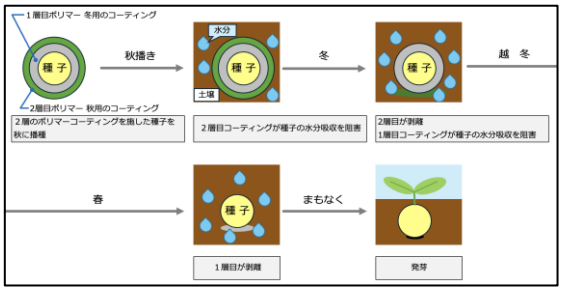
- 食糧安全保障の観点から、持続的な国内食糧生産が重要視されている。一方、高齢化による農家減少で**一農家当たりの作付面積が増加**し、**農家の労働負荷の増大**が問題化しています。

- 寒冷地農業では、農繁期の労働が過酷なため、**農閑期への労働分散**の声が上がっている。
- 種子の表面にポリマーコーティングを施し、**発芽タイミング**をコントロールできる仕組みを開発しました。



■ ポリマコート種子の基本的な仕組み･適用シーン

- 内側（1層目）：**冬越し後も残る春用のコーティング春の気温上昇により剥離** 外側（2層目）：**秋～冬の間、水分吸収を完全にブロックする層冬の間に剥離** この2層構造により、「秋にまいても発芽しない」・「栽培サイクルを最適化」するといった機能の実現を目指しております。



- 類似技術と比較して、コーティング材料、層構造が異なり、**温度による正確な発芽制御が可能**であり革新性、優位性を有しております。

- 現時点では、北海道内の作物を対象とした利用を想定しているが、コーティングの乖離温度は調整可能なため、全世界の省力化が必要な**農業現場・土木現場への適用をめざしていきます。**
（3.1兆円にも及ぶ種子市場への進出が可能となると試算。）

GerminaX　事業企画担当　登米 航 watarutoyomaww@gmail.com